令和３年度　はまぼう学府　小中一貫教育

はまぼう学府

１　磐田市が目指す小中一貫教育

磐田市では、平成 24 年度から小中一貫教育に取り組んできた。地域全体で子供の教育をサポートするという基本理念のもと、**各中学校区（学府）において小中共通の目標、カリキュラム、指導方法等が９か年を貫いて設定され、小中協働で実施される教育**を推進してきた。その内容は、豊かな学びの創出、社会性や道徳性を備えた心豊かな人づくり、国際社会の中でたくましく生きる力、英語によるコミュニケーション力の育成を目指している。

今後は、より小中一貫教育を発展させていくために、学府の子供に必要なことは何か、９年間で何をどのような形で育てていくのか、「学校の得意」について今までの取組をもう一度共通の目線で見直してみることが求められている。

２　経営構想

はまぼう学府の子どもたちは気さくで、人と関わることを好み、求める傾向が強い。方法や手順を教えれば、素直に挑戦してみようとする前向きな気持ちをもっている。また、目の前に太平洋を眺め、田畑や商店街を有する特徴ある環境の中で、「わが町福田」としての誇りをもっている。一方で生活習慣に課題があったり、自分の思いをうまく伝えられなかったりする姿も見受けられる。

このような実態を踏まえ、私たちは、「じだいをたくましく生き抜く知徳体の調和のとれた凛とした福田」の子の育成を願い、「自尊感情」と「ことばの力」の育成に力を注ぎ、これらを支えとした「良好な生活習慣」づくりを、家庭や地域と一体になって取り組んできた。

さらに、今年度からは、昨年度までの取組や成果を土台とし、子どもたちの良さを生かし、**「仲間と力を合わせて　のびやかに育つ福田の子」の育成**を学府教育目標に掲げ、「ふるさと福田」を合言葉に、多くの人との関わりの中で豊かな感性をもった、未来を切り拓くたくましい子どもたちを育てるための取組を実践していく。

３　学府教育目標

「仲間と力を合わせて　のびやかに育つ福田の子」

令和元年度に、それまでの学府教育目標を変更した。福田の子供たちの良さと課題を明確にし、より分かりやすく身近なものとなるようにし、令和２年度よりこの目標で小中一貫教育を実践していく。温かな家庭や健やかな成長を願っている地域の方々に囲まれ、自然豊かな「ふるさと福田」の地で、友達と一緒にのびのび育ってほしいという願いが込められている。

この目標を達成するために、私たちは・・・・

（１）認め励ます声掛けにより自尊感情を高めること
（２）自分を大切にして目標をもってがんばる子に育てること
（３）互いが支えあい関わり合い高めあう子供に育てること
（４）知・徳・体のバランスの取れた子供に育てること

について小中９年間を通して指導していかなければならない。

4　本学府のめざす子どもの姿

（１）　「学ぶ喜びを感じる子」→学びづくり部

「なぜ」「どうして」という疑問をもち、自ら考えたり、効果的に話し合ったりする活動を通し、その解決に向かって生き生きとした表情で「意欲を持ち進んで学習」に取り組む姿

（２）　「友達と創り上げる子」→こころづくり部

思いを形にするために、仲間と練り合い、葛藤しながら道を切り拓く強さを身につけ、主体的に取り組むことで「夢に向かって挑戦」するたくましい姿

（３）　「心身共に元気な子」→体づくり部

「良好な生活習慣」を身につけ、自分に自信をもち、しなやかで健康的な生活を送る姿

5　研究の視点

子どもたちの行動力の源となるのは、**自尊感情**であると考える。子どもを取り巻く環境である地域・家庭・学校において多くの人たちが、愛情をもって接すること、認め励ます言葉かけ（ボイスシャワー）を多く浴びせることを心がける。これらは、幼少期からの家庭での言葉かけが大きく影響するため、こ・幼・保・小・中が連携して取り組んでいく意義がある。

また、今年度、新しく作り直したグランドデザインを家庭や地域に周知する。福田の良さを知ってもらうこと、学府教育を理解してもらうことを意識して作成したものであり、共に取り組む体制を作る。（わかりやすい言葉、親しみやすく福田の良さを表現したデザイン）

学府の教職員による研修会を計画し実践する。年３回の全体研修では、３部会（知・徳・体）と教科部会を軸とし、幼・小・中の学びや指導のつながりを意識した研修を行う。

「学びづくり」部においては、学習課題を**自分ごと**としてとらえることで、意欲が高まると考え、課題設定や単元構想図を練り合う。また、**対話活動**を効果的に取り入れることで、**「ことばの力」**を育成し、コミュニケーション能力を高め、深い思考を導き出すとともに、自分の思いを表現したり、級友の思いに共感したりする**「人間関係づくり」**にもつながるスキルを身に着ける機会とする。これらは、「徳」の部における、学級活動などの**話し合い活動のルール**作りにも共通する取り組みである。

「心づくり」部では、学校行事を中心に、企画・運営する力（子ども主体の取組）を高め、幼・小・中の交流活動を企画する。（現在行っているあいさつ統一行動日・学校説明会などに加え、ASDK 活動→A:あいさつ S:掃除 D:読書 K:交通安全における交流）子ども主体の取組を実践していくことで、子ども達の**自尊感情や自己有用感**を育てていく。

「体づくり」部では、学府学校保健委員会などを実施し、学府共通の「健康 10 か条」（こども園等では５か条）を継続して取り組む。**心の健康**にも注目し、親子対象の講座や講話などを実施し、親子のコミュニケーションや**レジリエンス**等の啓発をしていく。また、ノーテレビ・ノーゲームデーを実施し、家庭における家族団らんでの会話やメディアから離れ、穏やかに過ごす時間の心地よさにも気づかせたい。また、年に２回学府家庭保健委員会を実施し、各家庭において家族で健康目標を話し合い、実践する週間を設ける。

これらの取組を通し、子どもたちに関わる全ての人々が福田で生きる誇りをもてるよう努めたい。

6　令和２年度の取組と成果

教科部では、主に「主体的な学習に取り組む態度」の評価と授業展開の工夫について話し合った。「どのような資料をもとに、どう評価するのか。」を考えることで、「自分事として学ぶ」ことのできる授業の必要性を感じ、課題設定や展開、支援の仕方などを見直していかなければならないと実感した。また、指導方法や学習のルールなど、統一すべききことを確認し、系統立てて指導していくことについては、学府としてまとめていくことで学びがつながると考え、今後も教科間での研修を進めていく必要があると確認した。学びを深めるための「交流活動」についても、感染対策をした上で何ができるのか、効果的な交流活動の方法について意見交換を行った。実践をもとにした研修を進めることで、子供たちをイメージした話し合いを行うことができた。また、3 校間の教員の距離が縮まり、指導に行き詰ったときに気軽に相談しやすくなったと感じた職員が多く、結果的に学府の教科指導の深まりにつながったと考える。

「学びづくり部」では、学びのルール作りに向け情報交換を行い、現在統一されている「めあて」と「まとめ」を表示する配色の徹底、話し合い活動での目指す子どもの姿の確認、３校の学習ルール（姿勢や用具など）の把握を行い、一覧にまとめ、授業実践に生かすことができるようにした。

「心づくり部」では、「理想のあいさつとはなにか？」や３校が一緒に行うあいさつ運動のネーミングなど、今まで継続して行ってきたあいさつ運動について、改めて児童生徒が主体となって話し合い、学府の求めるあいさつ像をまとめた。人の移動が制限される中で、あいさつ運動そのものが実施できないという現状となり、リモートで児童生徒が気軽に話し合える場を設け、活発な意見交換ができた。

「体づくり部」では、学府内の不適応児童・生徒の実態について情報交換することにより、実態把握や子どもたちの変化について理解を深めた。その結果、レジリエンス（折れない心）を育てるための研修の必要性を感じ、各校の学校保健委員会にてレジリエンスについての研修の場を設けた。また、ここ数年の課題である給食指導についても、残食の特徴や配膳方法の確認を行い、統一すべきことの洗い出しを行った。

特別部会では、「総合的な学習の時間」担当者で年間指導計画の確認、見直しを行い、小学校についてはテーマを統一することとなった。特に防災教育、地域学習を中心に小中のつながりを視点に話し合いを深めた。

7　令和３年度の取組

「教科部」では、中学校の新学習指導要領の完全実施を受け、小中や他教科とのつながりを意識した単元計画や評価基準の作成を進め、小中の学びをつなげていくことができるようにしていく。

「学びづくり部」では、本年度まとめた話し合いルールの表を生かし、各教科で意識した実践を進める。学府の課題である「学び方」の指導や宿題の内容についても、教科部と連携し、研修を深めていく。

「心づくり部」では、あいさつについて話し合ったことをもとに、実践に移していきたいと考えており、さらに子どもたちが主体となった活動にしていきたい。

「体づくり部」では、不適応生徒の減少を目指し、レジリエンスを高めるための研修をさらに進めていくため、教員の共通理解のために、講師を招いての講話や公開授業などの実施を計画している。

研修の土台となる「コミュニケーショントレーニング」「レジリエンスマッスルの育成」「人間関係づくり」のスキルを身に付けさせるため、継続的、かつ計画的に活動を取り入れ、**「はまぼうチャレンジタイム」**として取り組んでいく。また、「ノーテレビ・

ノーゲームデー」については、実施時期を中学校の定期テスト前としていたため、メディアから離れ、生活リズムを整えていくことという趣旨から学習の時間を確保するという要素が強くなり、本来の体づくり部の取組から離れてしまっていた。そのため、来年度は、「はまぼうふれあい week」とし、家族でコミュニケーションをとる時間として取り組んでいく。

小中の学びのつながりを考えた系統的な防災教育、地域学習を実施することで「ふるさと福田」に対する正しい理解のもと、ふるさとを愛する子どもたちの育成に努めていく。